

RA協議会 第3回年次大会@あわぎんホール 徳島県郷土文化会館
組織外個人会員ミーティング(第2回)
2017年8月30日(水)12:40-13:40 3F会場H(展示室6・7)

個人会員ネットワークの 活動方針について

- ・協議会の運営体制
- ・協議会の設立趣旨、経緯と会員制度の考え方
- ・年次大会の企画&運営の年間スケジュール(時間軸の共有)
- ・大会参加者の状況(第2回年次大会アンケートより)
- ・組織外個人会員の活動実績・課題等(2016~2017)

高橋真木子、石田貴美子、村上壽枝

リサーチ・アドミニストレーター協議会
副会長、運営委員会委員、組織外個人会員代議員

RA協議会の運営体制 (2017年8月現在)

- **総会**: 年次大会初日夕方
- **運営委員会**:
 - 年次大会前、前日、特別総会前の3回程度の開催を予定。
 - 運営委員は、代議員のうちから構成される。
 - 運営委員は円滑な運営のため15名と規定
 - 組織会員の代議員も全員が運営委員ではない。
 - 組織外個人会員からは代議員は40人毎に1人と複数いるが、当面は運営委員は1名枠と想定。
- **専門委員会**: 15名の運営委員が分担して委員長 & 委員を担当
 - 年次大会企画運営、情報発信、スキルプログラム、
 - 国際WG
- **事務局**: 金沢大学(学長; 山崎光悦、RA協議会初代会長)

RA協議会の設立趣旨、会員組織の考え方

職種と機能の性格上、組織会員の活動を中心にして、長期的にこの職種を発展させるために大切な、専門職としての人材層の充実、そのための個人レベルのネットワーキング機能の充実を目指す。

→ 組織会員機関に所属する個人会員、組織外個人会員の2種類があります。

(山崎会長のメッセージより)

- URAの具体的な業務は大学等によって異なっていることから、URA実務者の業務実施能力の向上、人材育成の進め方、また、個々の大学等の特性を踏まえたURA組織の在り方、キャリアパスについても多方面での取組みが求められています。このような状況に鑑み、各機関が取り組んでいるリサーチ・アドミニストレーション組織の定着・展開に向けて、それらを担う人材の育成・能力向上、課題の共有や解決についての情報交換を促し、研究力強化への貢献、学術及び科学技術の振興並びにイノベーションへの寄与を目的としたネットワーク組織「リサーチ・アドミニストレーター(RA)協議会」を設立しました。
- URAの活動は、研究者のように個人的な活動に留まるものではなく、研究組織・機関全体の研究活動に資するものです。したがって、所属組織の理解と協力の下、本協議会が実施する諸活動に参加することが望ましいと考えています。このことから、本協議会においては、研究組織・機関を対象とした組織会員を主たる会員として位置付けたいと考えています。

URAネットワーク構築に向けた活動経緯と今後

2009年
学術研究懇談 (RU11)
URAを育成・確保につ
いての議論がスタート

2011年 文部科学省
「URAを育成・確保する
整備事業」スタート

2013年 文部科学省
「研究大学強化事業」
スタート

キャリアパス、評価、組織設計など

主幹校 東京大学
第1回URAシンポ

主幹校 名古屋大学
第2回URAシンポ

第3回URAシンポ/第5回RA研究会
(主幹校 大阪大学 & 京都大学 2013年11月)

第4回URAシンポ/第6回RA研究会
(主幹校 北海道大学) 2014年9月

第1回RA協議会年次大会
(主幹校 信州大学) 2015年9月

第2回RA協議会年次大会
(主幹校 福井大学) 2016年9月

第3回RA協議会年次大会
(主幹校 徳島大学) 2017年8月

2009 2010 2011 2012 3 4 5 6 7

RA研究会
第1回(48人) 第2回(66人) 第3回(94人) 第4回(203人)

約600人

500人超

118
機関
419
人

140
機関
514
人

559人

UNITT(2008年～)
大学技術移転協議会
地域・中小大学URA勉強会、
私学連盟、大学事務職員勉
強会等 関連の活動

事業採択校メンバ
ーを中心にネットワ
ーク組織設立に向けた
議論を開始

事務系職員、産学連携関係者
とも連携

URAネットワーク構築にむけた検討経緯

第1回合同大会

第2回合同大会

RA協議会
年次大会

2013年度

2014年度

2015年度以降

11月18&19日

第4回URAシンポ/第6回RA研究会合同大会

参加: 41機関
600人

19日最終セッション: ネットワーク組織設立検討開始と参加のよびかけ

URAネットワーク
設置準備委員会
3月10日発足

・2014年2月末までの賛同者のうち、「所属組織から了解の下」設立準備に参画するメンバー22機関から構成。

・2014年4月～9月(5回の全体委員会、その他WGレベルの検討を進めた)

9月17&18日

第5回URAシンポ/第7回RA研究会合同大会

参加: ○機関
一次登録400人

18日最終セッション: 協議会発足、会員加入の呼びかけ

第1回設立総会
14年3月11日

RA協議会

運営委員会

理事会的な機能

分科会1 (スキル関係) 分科会2 (情報発信関係) 分科会3 (年次大会関係)

・会員制度、年会費制度を計画
・主に組織会員による運営
・事務局担当大学

大会開催経費の考え方

2013年度

・URA整備事業費

2014年度

・「URA整備事業費」との連携
・「研究力強化促進事業」との連携

2015年度以降

・年次大会は会員の年会費より支出
・年次大会の参加費制度、企業の賛助制度も検討

第2回年次大会（H28年）を例にした 企画＆運営のスケジュール

例 第2回年次大会（H28年9月、福井大学）

H28年1月8日	組織会員予定大学へ、第2回年次大会の実行委員選出依頼、他
1月27日	第2回年次大会実行委員会の開催
2月17日	HPIにて第2回年次大会開催通知
4月8日、 4月15日	大学セッションの担当機関および時間割の決定、 運営委員および実行委員へスポンサー営業の依頼
6月上旬	大会開催告知リーフレット配布開始、第2回年次大会参加申込み、 ポスター発表者募集開始
7月中旬	第2回年次大会のポスター発表者の決定
8月上旬	第2回年次大会予稿集Web 公開
9月1～2	第2回年次大会
9月下旬	第2回年次大会の総括
10月下旬	年次大会実施要領の作成
11月16日	第3回年次大会主幹校の徳島大学との引継ぎ会

年次大会実行委員会：
・実行委員長
主幹校（福井）

・副実行委員長
次年度主幹校（徳島）

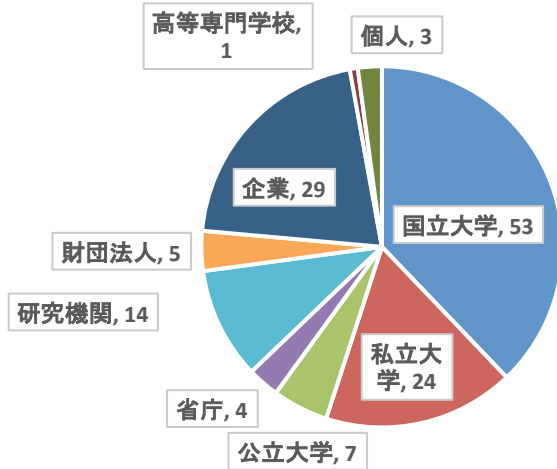
・実行委員会は、
協議会運営委員会の大
学から各1名が参加。
今後は、組織外個人会
員も企画・運営に携われ
れば良いのではないかと。

第6回RA協議会運営委員会資料6参考

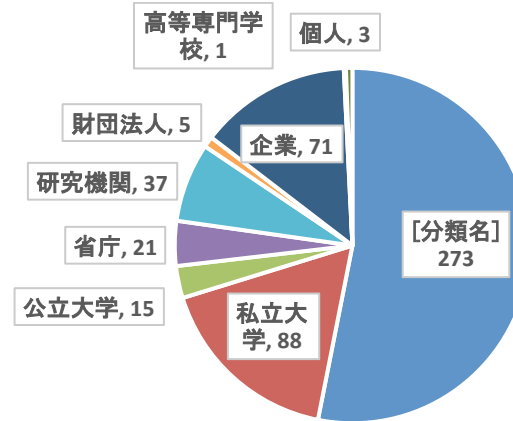
＊主幹校（ホスト）は約1年半前から準備を始めています（大会開催にあたって関係者に感謝しましょう）

第2回(2016)年次大会 参加状況

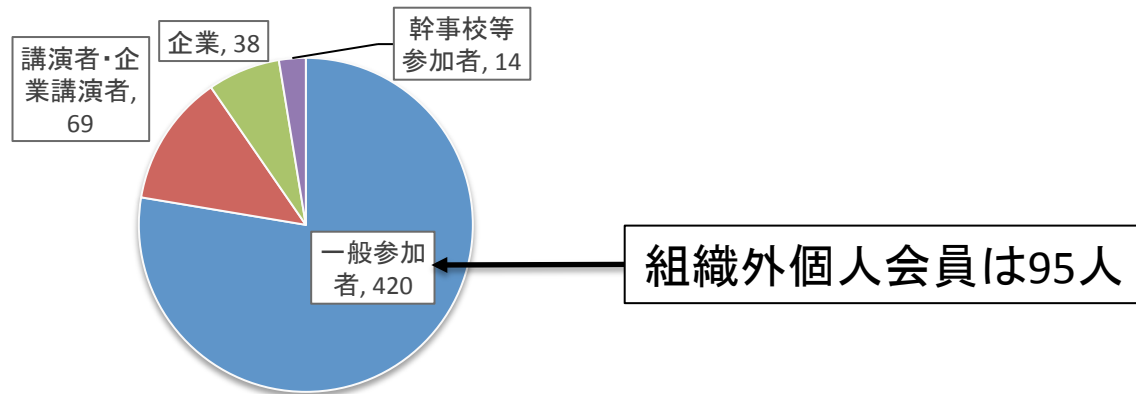
1) 機関別参加状況 140機関 (参加機関数)



514名(参加者数)



第3回(2017)年次大会 参加状況

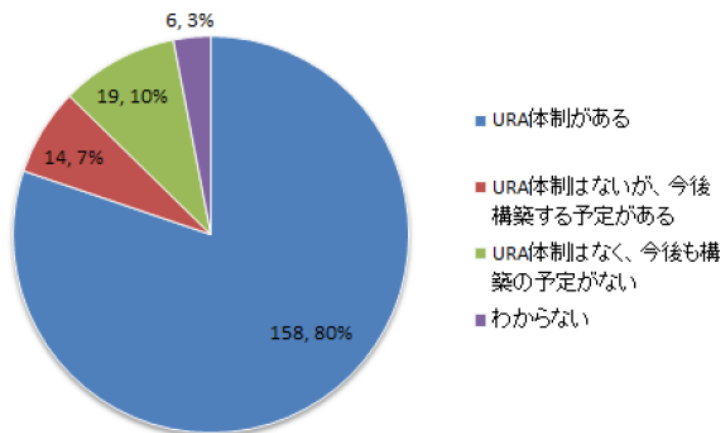


第2回年次大会 事後アンケート

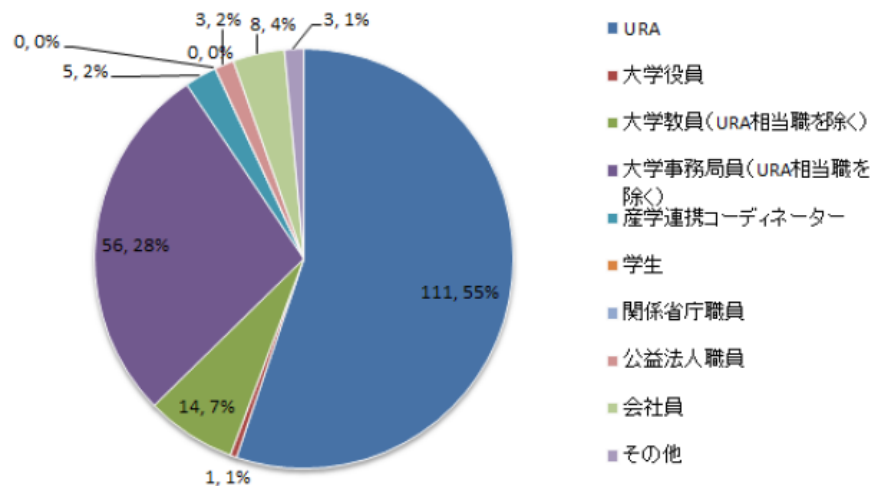
回答数 202 (回答率40%)

RA協議会HPより

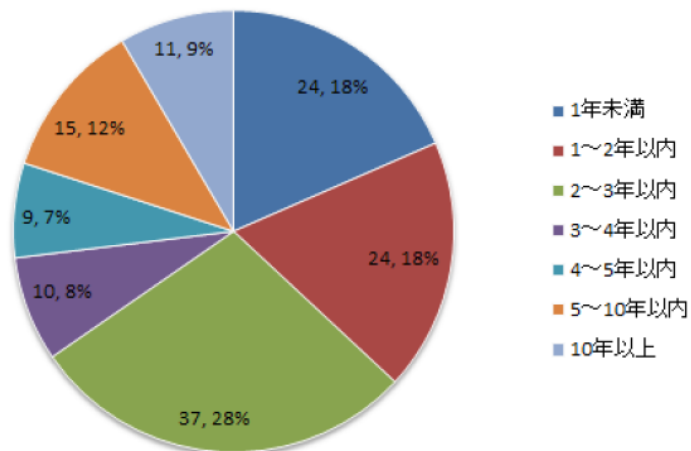
1) 参画機関のURA体制整備状況



2) 参加者の役職



3) 役職をURAと回答した方のキャリア (類似職含む)



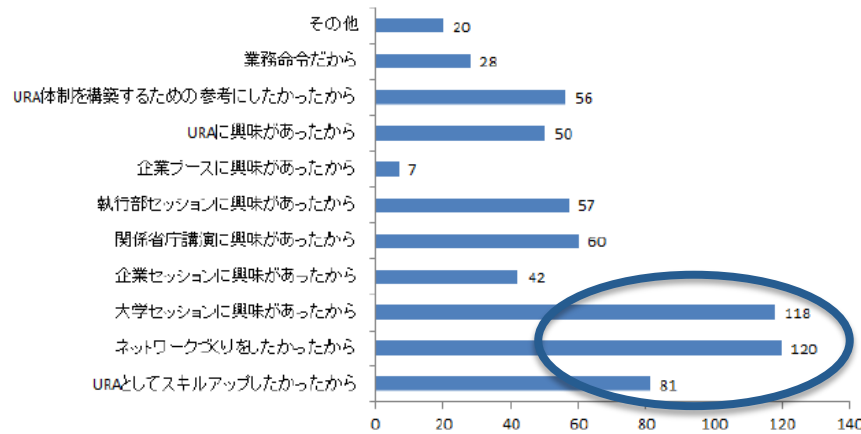
・第1回は1-2年以内が45名33%から、第2回は24名18%へ減少
 ・他方、第1回は2-3年以内が13名10%から、第2回は37名28%に増加

第2回年次大会 事後アンケート

回答数 202 (回答率40%)

RA協議会HPより

4) 参加動機(複数回答)



参加の3大動機は第1回と同様

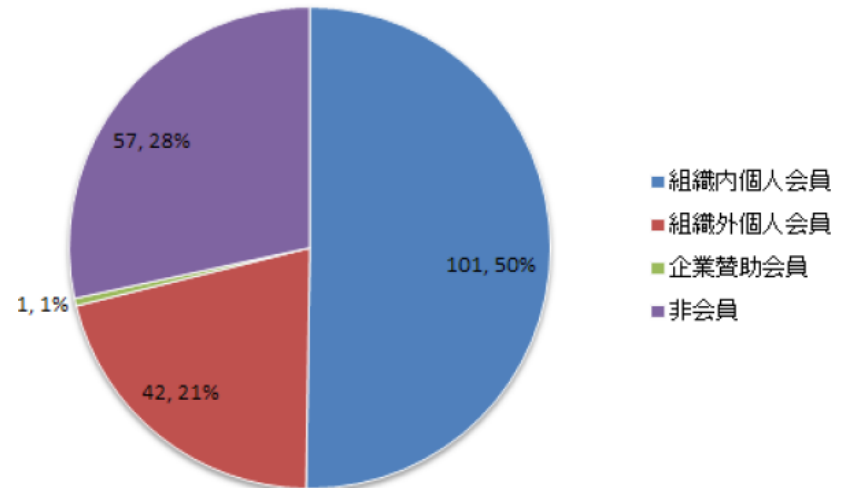
- ・ネットワーキング
- ・各大学の活動を知る
- ・スキルアップ

5) 参加者の会員属性

「組織内個人会員」は、
第1回の79名約40%から10%増の101名50%

「組織外個人会員」は、
第1回の51名約26%から**微減**の42名21%

第1回のアンケート回答率は約6割



組織外個人会員の活動実績 (2016~2017)

★第3回年次大会(2017)

ネットワーキングセッション

参加者ネットワーキングセッションの正規プログラム化

2日間実施、昨年度の実施結果を基にテーマを検討

1日目プレアワード、国際化 50件

2日目自由テーマ 15件



Interest GroupSIGセッション (Special)

参加者ネットワーキングセッションの枠内でトライアル実施

競争的資金と研究戦略



(経緯)

昨年度、組織外個人会員の有志が参加者ネットワーキングとSIGセッションを提案し、参加者ネットワーキングをトライアルで実施(1日で41名が参加)。セッション参加だけでなく、他機関のURAの本音がききたい！という意見が多数あり、今年度は実行委員会にはかった結果、プログラム化が実現。

参加者ネットワーキング	
8月29日(火) 11:00-16:45	会場G (4階・和室)
8月30日(火) 9:20-13:50	会場G (4階・和室)
<p>年次大会には、企業が400人以上の研究支援・産学連携に関わる関係者が集まります。他機関のURAとの地域や組織を越えた対話や交流を通じて、産学連携の解決やステップアップにつながるネットワークを構築する場です。対話、議論に実施した参加者の積極的な意見、課題を越えて自由に対話する「参加者ネットワーキング」も「ビジョン」を通じて進め、実現します。</p> <p>1日目は、昨年、盛り上げた「プレアワード」(科研費一応賞)を以て関連する具体的な支援や期待について、質疑応答の場として、2016年度(2016年度)の「国際化」に関する海外機関との連携、外国人研究者の招聘について対話する場を実施します。2日目は、テーマは自由です。この場での発表の興味・関心は、自由に発表します。いずれも、他機関がアシスタントとして、参加者が話し合いの場をネットワーキングできる場を提供しますので、お気軽に参加ください。入場料も自由です。</p>	
1日目 9月29日(火) 設定されたテーマに基づいて対話します	
プレアワード	8月29日(火) 11:00-12:20 会場G (4階・和室)
<p>プレアワードに関する共通の課題として、科研費をはじめ競争的資金の獲得にまつ環境の具体的な支援の観点から、URAが具体的にどのような支援をしているか、事務局との連携、他機関との共通課題などについて対話を実施します。昨年度実施したネットワーキングでも、議論の多かった「科研費」からスタートして、参加者からの課題提供に応じて、他機関の競争的資金の獲得に関する話も実施します。今年も、科研費改革をきっかけとして、昨年とは違った課題が設定されます。他機関で対話する研究がない人、一人で話している人は他機関にたずねて対話の仲介してくれるチャンスです。お気軽に参加ください。</p>	
<p>世話人：石田 貴美子 同志社大学 研究開発推進機構 リサーチ・アシスタントリーダー 田中 有輝 中央大学研究推進本部 リサーチ・アシスタントリーダー</p>	
国際化	8月29日(火) 15:15-16:45 会場G (4階・和室)
<p>国際化セッションでは、国際連携を担っている方々の情報共有を通じて、日々感じている課題の共有の場や、国際連携担当のURAの役割や方向性について実施します。大学の国際化の必要性が限られるようになってきた中、かなりの時間がたち、各大学でも様々な方策を講じています。この中で、国際連携についても内容は多岐にわたります。大学執行部の考えや国際化による、競争的資金、研究者の出入、派遣の状況や環境、産学連携の推進など、積極的に議論される傾向にあります。一方、研究現場での海外の研究者との情報交換などは、国際共同研究の推進の特に初期の段階においては、具体的な数値に現れていくことが多くなります。国際化によって、競争的資金も多岐にわたります。また、北米の国境をまたいでいる大学では、海外拠点の設置も積極的に行われていますが、この課題についても、様々な方法があり、解決する課題も多岐にわたります。こうした状況について、実際に自分の現在の業務について話すに同時に、他機関の業務についても知ること、大きな中核の日本全体の研究機関の国際化が進んでいくことではないでしょうか。</p>	
<p>世話人：西村 真 東京大学 医科学研究所国際学術連携室 URA 大木 由緒 京都大学 産学連携推進部 産学連携推進員 URA 吉岡 佐知子 京都大学 学術研究推進部 特定専門推進員 URA</p>	

組織外個人会員の活動実績（2016～2017）

★第3回年次大会（2017）

大学セッション

組織外個人会員のセッションオーガナイズの実現

年次大会実行委委員会で、大学セッションのテーマ募集することになった際、組織外個人会員からも提案できるようにすることを強く要望し、実現した。組織外個人会員に募集した結果、**12件**の提案があり、他のセッションとの調整等のプロセスを経て、**5件**が大学セッションのテーマとして選定された。これは、全体の20%に当たる。

 大会運営にも 組織外個人会員のみなさんのご意見を取り入れることでプログラムに多様性が生まれ、魅力的なものになっている。

去年のネットワーキングで意見のでた課題をセッションの題材にした
→人材の流動性やキャリアパス
省庁関係者との対話(丸山)セッションを実施した

課題 ネットワーキング世話人を集めるのに苦慮
個人会員への情報共有方法

組織外個人会員の活動実績（2016～2017）

★その他の活動

（1）ワーキンググループ（募集のあった2つのWG）

資格認証WG 12名中 4名が組織外個人会員
情報の取り扱いに関するWG 16名中 1名が組織外個人会員

（2）Facebook Group

昨年の年次大会後、ネットワーキングセッション参加者の交流を目的にトライアル的に開始したFacebook Groupはメンバー57人。

組織会員に所属する人が29人、組織外個人会員＆非会員が28人。1年間で約140の投稿があり、機関の取組み紹介や、相談ごと、競争的資金等公募、IR、国際等さまざまな情報共有と、メンバー間の交流に役立っている。

Rman-j Networking Session 2016

➡ 今後の組織外個人会員の活動の場の広がり大きく期待

